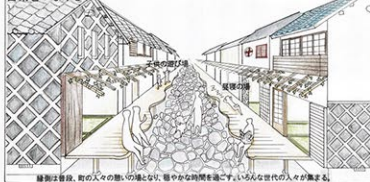
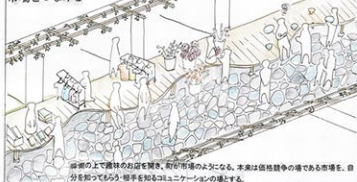


日常をつなげる



庭園は昔屋敷、町の人々の憩いの場となり、穏やかな時間を過ごす。いろいろな世代の人々が集まる。

市場をつなげる

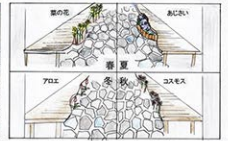
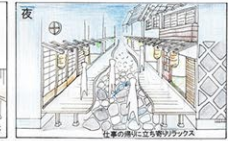
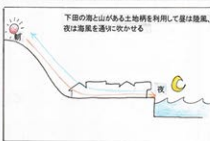
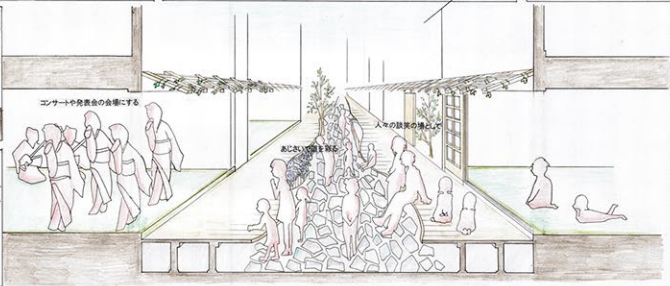
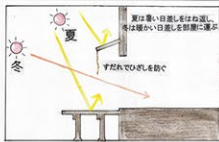


市場の上で露味のお店を開き、町が市場のような。本来は価格競争の場である市場を、自分を知ってもらう・相手を知るコミュニケーションの場とする。

伝統をつなげる



空き家と縁起をスチーフとして、披露する場を作ったり、仕事を体験する場を作ったりして興味を持ってもらえる。伝統をつなげる。



つなげる縁側 ～縁側が生む新しい暮らし～

私たちが暮らす現代社会は人と人とのつながりが希薄になり、近隣住民のことさえ、あまり知らずに暮らしている。

そんな現代社会にみんなの縁側が必要だと考えた。

縁側は、内外をわらかくつなげる中間領域であり、日本家屋独特のものとして存在してきた。縁側では、家族や地域の人々と会話をし、日向ぼっこなど自然とのつながりも生み出してきた。しかし、現代では、防犯や、土地の潤滑から縁側を削げる余地も見られなくなった。つながりが希薄となった現代こそゆるやかなつながりが縁側で必要なのではないだろうか。

それに加え、個々人の持つ魅力を縁側でつなげることで、町全体がにぎやかな市場のような老若男女がつながる場になった。

例えば、伝統的な踊りや、三味線を披露する場、あるいは、仕事を体験する場として縁側を活用する。他にも、隣人や近所の人と食事を楽しんだり、昼寝をしたがる場として利用し、穏やかな時間を過ごすようにしたい。

この縁側は、住民たちが趣味のお酒を嗜む場として利用し、地域の人とお互いに趣味を教えあい、仲間を見つけるのもいいだろう。適切な道を通して人々のコミュニケーションが生まれていく。

このように活用することで、単なる家族だけでつながる場であった縁側が地域と触れ合いみんなの縁側となる。そして、このみんなの縁側で、人と人が直接コミュニケーションをとることで、つながりを強化し、協力、助け合いのある暮らしが生まれるだろう。



敷地説明

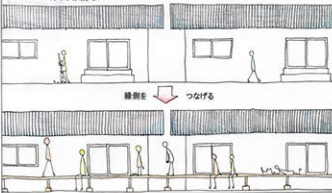
静岡県下田市



伊豆半島の先端に位置する都市。海と山、豊かな自然に潤われた歴史と文化のある所。しかし現在は、人口の減少によるにぎわいの薄れ…人のつながりの薄れ包摂量が多いのに、後継者の減少…伝統のつながりの断絶が問題視されている。



みんなの縁側を創る



縁側によってつなげるもの

